

川崎臨海部に関するトピックス

多摩川スカイブリッジの開通



川崎市殿町地区（キングスカイフロント）と羽田空港（羽田グローバルウイングス）をつなぐ「多摩川スカイブリッジ」が令和4（2022）年3月に開通（道路延長約840m）

羽田空港周辺地域及び京浜臨海部の連携が強化され、ヒト・モノ・ビジネスの交流活性化など、相乗効果を発揮することで、我が国の国際競争力を強化し、経済の持続的な発展に寄与することが期待される。

両地域を結ぶバス路線も運航（京急大師線大師橋駅または浮島バスターミナル～キングスカイフロント～京急空港線天空橋駅）

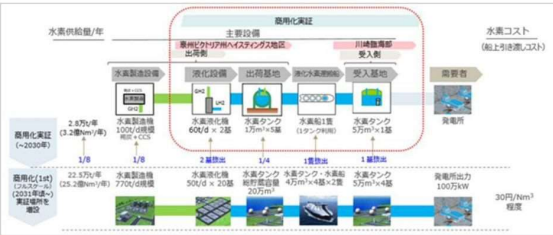
JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止に伴う土地利用方針の策定

JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区における高炉等休止などを背景として、扇島地区等の果たすべき役割、土地利用の方向性、導入機能、基盤整備に関する本市の考え方などを取りまとめ、カーボンニュートラルの実現・次代の柱となる新たな産業の創出を図るなど、川崎臨海部の長期にわたる持続的な発展に繋げ市民の生活を支えるとともに、我が国の課題解決に資する効果的な大規模土地利用転換を早期に実現することを目的として策定（令和5（2023）年8月）



扇島地区のゾーニングイメージ

液化水素サプライチェーンの商用化実証の受入地に選定



国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金事業「大規模水素サプライチェーンの構築プロジェクト」の一環として取り組まれている「液化水素サプライチェーンの商用化実証」による液化水素の受入地として川崎臨海部が選定（令和5（2023）年3月）

事業イメージ（NEDO及び事業者のプレスリリースより）

臨海部ビジョンの詳細や川崎臨海部の最新情報は

臨海部ビジョン

<https://www.city.kawasaki.jp/590/page/0000136484.html>



川崎臨海部公式サイト

<https://kawasaki-rinkaibu.jp/>



川崎市臨海部国際戦略本部 X (旧Twitter)

<https://twitter.com/CKAWASAKIrinkai/>



Colors, Future!
いろいろって、未来。

川崎市

臨海部ビジョン〔リーディングプロジェクト2023年6月改定〕

川崎市 臨海部国際戦略本部 事業推進部

電話 044-200-0524

FAX 044-200-3540

E-mail 59jigyo@city.kawasaki.jp

（令和5（2023）年9月発行）

臨海部ビジョン

～ 川崎臨海部の目指す将来像 ～

〔リーディングプロジェクト2023年6月改定〕

臨海部ビジョンの目的

川崎臨海部を、川崎市のまちづくりの基本目標のひとつである「力強い産業都市づくり」の中心的な役割を担う地域として、さらには日本の成長を牽引する「産業と環境が高度に調和する地域」として持続的に発展させるため、30年後を見据えた臨海部の目指す将来像やその実現に向けた戦略、取組の方向性を示すことを目的に、平成30（2018）年3月に策定（川崎臨海部を取り巻く環境変化を踏まえ、令和5（2023）年6月に「リーディングプロジェクト」を改定）



川崎臨海部の現状



事業所・従業者数：経済センサス（H28・民営・川崎区のうち産業道路以南及び「川崎殿町・大師河原地域」、「浜川崎駅周辺地域」及び多摩川リバーサイド地区）

臨海部ビジョンの全体像

川崎臨海部が目指す 「30年後の将来像※」

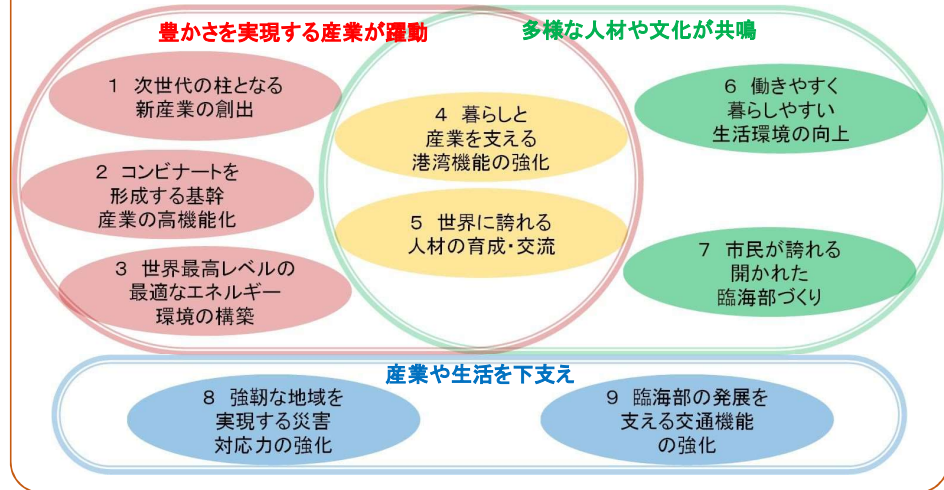
- 成熟社会における**豊かさを実現する産業が躍動**し、革新的な技術、製品、サービスが生まれる知性と創造性のあふれる地域として、新しい価値を生み出し続けている。
- 「働く・暮らす・学ぶ」が一体となった受容性に富む地域として、**多様な人材や文化が共鳴**し、働く人や市民の誇りとなっている。

※平成30（2018）年3月の策定時に設定



参考：扇島地区土地利用概成時のイメージ（JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止に伴う土地利用方針より）

基本戦略（「30年後の将来像」の実現に向け、今後取り組むべき方向性を分野ごとに示したものの）



今後の取り組むべき方向性

（10年から先を見据えた目指す姿）

リーディングプロジェクト

「30年後の将来像」を実現するための「基本戦略」に基づき、直近10年以内に先導的・モデル的に取り組むプロジェクト

臨海部ビジョン策定後の主な成果

キングスカイフロントのクラスター形成に向けた取組



ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）

- ライフサイエンス関連の先端企業等の集積
→約70機関が立地 就業者数 約5,000人
(うちライフサイエンス分野 約1,600人)
(令和5(2023)年1月時点)
- 世界的に著名なインキュベーター（米国Biolabs社）と連携したシェアラボの開設（令和4(2022)年6月）
（ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）内）
- 新たな国プログラムの獲得
（共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)等）

立地企業の再投資や企業誘致等を促進する充実した補助制度



川崎臨海部産業競争力強化促進補助金

- 研究所（賃貸研究所を含む）の新設に対する補助
（川崎臨海部研究開発機能強化補助金(イノバート川崎ネクスト)）
補助金の額：最大20億円 補助率：6～12%
- 既存工場の高度化・高機能化に資する設備投資等に対する補助
補助金の額：最大5億円 補助率：3～5%
- 製造業への土地利用転換に対する奨励金
奨励金の額：土地・家屋に係る固定資産税及び都市計画税相当額(1年分)

路上駐車解消や環境美化促進のための抜本的な対策

Park-PFI制度を活用した、緑道(池上新町南緑道)の再整備と交通レスト機能導入による、大型車の路上駐車や不法投棄などの課題解決に向けた取組(塩浜3丁目周辺地区)

(令和5(2023)年4月 大型車等の駐車場の一部供用開始
7月 緑道及び緑道内店舗の供用開始
9月 旧店舗を解体し、駐車場を拡大)



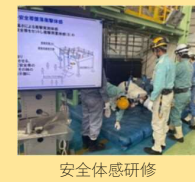
池上新町南緑道のベンチ・花壇

企業の枠を超えた技能継承を促す教育プログラムの実施

臨海部企業が誰でも参加できる講座・研修プログラムの開発

開催実績(令和4(2022)年度)
延べ45社、170名の参加

- 製造現場の安全管理講座(計8回)
- 災害の怖さを実感して安全意識を高める安全体感研修(計3回)
- 製造現場におけるDX及び脱炭素化促進講座(計1回)



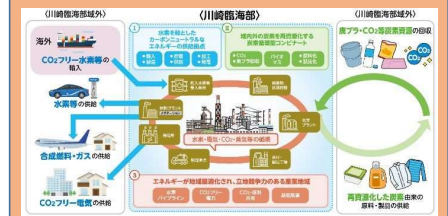
安全体感研修

臨海部の基幹的交通の整備



川崎駅から水江町までの路線に、ハイブリッド連節バスを使用したBRTの運行開始
(令和5(2023)年3月)

川崎カーボンニュートラルコンビナート構想の策定



川崎臨海部が社会経済状況の変化や社会的要請に適切に対応し、日本のカーボンニュートラル化を牽引するモデル地域になるとともに、2050年以降も企業等に選ばれ続け、産業競争力のあるコンビナートであり続けるよう、将来像とその実現に向けた戦略を示すために策定(令和4(2022)年3月)